

令和5年度

「市長が訪問します

市政に対するご意見をお聞かせください」

結果報告書

1. 開催日時 令和5年12月4日（月）
10時00分～11時00分
2. 開催場所 高山市総合福祉センター 会議室
3. 参加者 高山市連合長寿会理事 14名



【テーマ】 人生百年時代を見据えた長寿会の未来を語る

連合長寿会が抱える課題や現状から、シニア世代がいつまでもいきいき元気に活躍するために、長寿会と市ができることについて意見交換を行った。

■高山市連合長寿会の現状

- ・加入する単位クラブ数と会員数が減少している
単位クラブ数：H28 133 クラブ→R5 110 クラブ
会員数：H28 9,203 人→6,424 人
- ・定年延長などにより若年層の新規会員が増えず、会員の高齢化と役員のなり手不足、役員負担軽減のため活動を縮小しているクラブがある。
- ・長寿会活動活性化のため「楽しむ」「地域貢献」「得意を活かす」をキーワードに活動を展開している。

■長寿会意見

①地域でいきいき活動するために必要なこと

- ・役員のなり手不足による解散などを回避するため、各地域のクラブ運営をコーディネートしてくれる人材
- ・活動拠点となる施設を高齢者にも使いやすくする改修
- ・持続可能性を高めるために、市とやり取りする文書などを簡素化し「緩やかにつながる」こと
- ・市（地域）をまたぐ公共交通の充実
- ・限られた活動時期において、連合長寿会と各クラブの活動の関係性の検討

②長寿会として地域貢献できること

- ・環境美化活動の継続・各種ボランティア
 - ・人生経験を生かした知識などを若い世代へ伝えること（郷土料理、畑仕事、かたりべなど）
 - ・会員同士の見守り、交流による社会参加
 - ・スクールサポーターなどの地域の子どもの見守りや交流
 - ・特技や趣味を生かし、子どもを含む多世代との交流や居場所づくり
- ※地域貢献できることがあり、できる人もたくさんいるが、それを集約する人（世話人）がいないのが現実であり課題である。

■市長から感想等

- ・なり手不足は長寿会以外にも共通して言えることで、コロナ禍における活動縮小なども影響していると感じる。
- ・行政への要望などは多種多様・複雑化しており、地域特有の課題もある。制度に入り切らない課題などへの対応として、地域おこし協力隊のような仕組みを考えている。
- ・年齢に関係なく楽しく暮らすことが大事、「楽しみなこと」に行政として取り組めることもある。